



2009年6月会山行

西面の沢廻り

守門大岳山頂集合

食料など制限付き

担当 飯田 田村 鈴木

【日 時】2009年6月13日(土)～14日(日)

【場 所】守門大岳 14日11:00集中

【ルート・メンバー】

- | | |
|----------|-------------------|
| A 母川 | L 高橋・山口・植島・三坂 |
| B 大穴沢 | L 浅井・斉藤良・藤岡・高山 |
| C 中の高地沢 | L 石井・鈴木・野村・坂村・岩田 |
| D オカバミ沢 | L 田邊・耕至・木下・吉岡・小暮 |
| E 中津又沢 | L 手嶋・飯田・佐貫・煤孫・斎藤健 |
| F 本高地沢 | L 棚橋・大野・栗原・横山 |
| G コウクルミ沢 | L 小川・大田原 |
| H 母川 | L 古野・次郎・橋本・利香 |

☆ A～Fは1泊2日 G、Hは日曜日帰り ☆ A、Hは保久礼小屋付近から

今年の会山行を計画するのに一番苦労したのは場所選び。寡雪による雪解けの速さもあり、山菜が育ちすぎているのではないかという不安があった。検討段階では、なかなか渋いところも幾つか出たが、斜面や場所的なことを考えると、いくらなんでも無理があるだろうということになり、今回の山域になった。ほとんどが日帰りでも行けるところではあったが、制限付きの山行にしたので、パーティーごとに採取や料理に時間をかけながらも楽しんだようです。その辺はそれぞれの報告をご覧ください。

天候は予報よりも悪く土曜は時々雨で少し肌寒かった。日曜は山頂集中時間が11時にもかかわらず、9時には到着したパーティーも。山頂を目指していると、一般登山者から、「〇〇さんが山頂で待っていますよ」と言われることもあった。その一方で、集中予定時間に約1時間遅れたパーティーがありました。今回はさほど問題にはなりませんでしたが、今後のことも含めると大きな問題も潜んでいますので後述します。

制限事項については、今年は装備類についての緩やかな制限も加わった。意見としては殺傷禁止や酒禁止など、もっと厳しくてもいいとの意見もあったが、酒に関しては、「会長生命をかけて反対する」とのひとことで見送りになった。来年はどんな処で、どんな制限項目でやることになるのでしょうか。ご意見をお待ちしております。

6月会山行制限について

【食料】

一泊二食分の食料として主食として、米、麺類(うどん・そば・そうめん・ラーメン・スパゲティなど)、ただしインスタントラーメンのように付属の調味料が付いているのはダメ。

粉類(小麦粉・てんぷら粉・そば粉など)はご自由にどうぞ。

副食類は、一泊二食分として一パーティー缶詰・真空パックなど、内容量200グラム以内とします。重量制限内であれば麩・油揚げなども結構です。

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



醤油・塩・味噌・砂糖・マヨネーズ・ケチャップ・チューブ入りの調味料類、香辛料、油はご自由にどうぞ。今年はふりかけは禁止。

酒のつまみは、乾き物も含めて禁止です（山行前夜は除く）。あくまでも山菜・キノコやイワナを料理しつまみにしてください。

副食類（200g以内）のほかはすべて収穫したものでまかなってください。仮に何も取れなくとも、主食類に調味料・香辛料で味付けし、食事&つまみにしてください。つり用の餌といってイクラを持っていき、人間が食べるのはなしです。ブドウムシ食べたい方はご自由に。

【装備】

基本的にはテントではなくタープを使用すること。ただし天気が思わしくない時はテントを許可するので、一応車には積んでいくこと。

（仮眠用テントと共用することになると思うので、各Pリーダーは車のオーナーに確認しておいて下さい）

調理をするときはたき火ですること。ただし天ぷらのみは例外とするので、基本的には非常時以外使わないこと。

集中山行について

今回はひとパーティーが、集中予定時間に一時間ほど遅れました。無線で連絡は取れていたのですが、時間までに集まったパーティーは、先に下山することも考えました。しかし、今回は下山の距離も短く、集合時間もまだ余裕があったので待つことにし、全員で集中することは出来ました。

安全第一ということは揺るぎません。これは間違いないことですが、集中山行の心得としては、可能な限り時間に到着するという事だと思います。ひとパーティーでも来ないと気になります。まだ連絡が取れたからいいようなものの、これが取れなかった場合どうするかというのは、その時の状況もありますから、今断言はできません。

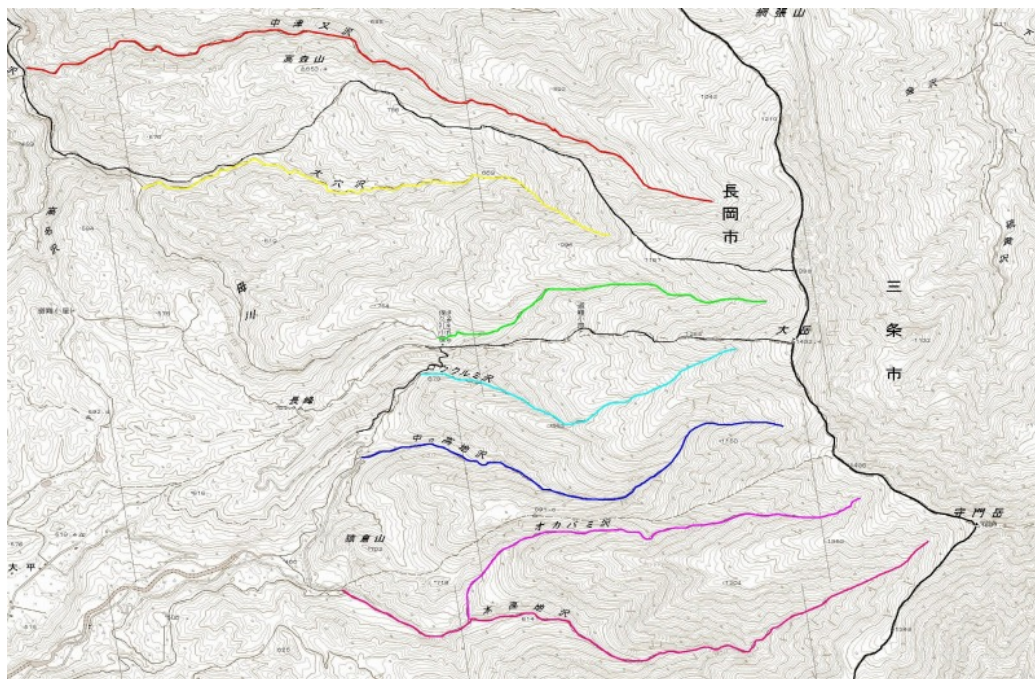
最悪を考えると、連絡が取れなくとも他のパーティーは下山してしまう場合も大いにあります。今回の場合でも山頂がもう少し天気が悪かったら、いくらツエルトを被っていても限界があります。予報からは想像できないような局地的な大雨があり、早く下りないと道路が寸断される場合もあるかも知れません。

集中山行は全員が晴天の下笑顔で集まれればこんなに楽しく、充実したものはありません。しかしひとパーティーでも来ないと、参加者全員が悪いほうへ引きずられてしまう危険性もあります。この辺のことも踏まえ、分散や集中などの会山行に関して、天候を考慮しての実施の決断から、遅れが生じた場合のパーティー側からの考え方や、待つ側の考え方など、集会の席で話し合う機会を作りたいと思います。



山頂のツエルトの群れ

6月会山行概念図



- A 母川
- B 大穴沢
- C 中の高地沢
- D オカバミ沢
- E 中津又沢
- F 本高地沢
- G コウクルミ沢
- H 母川

- L 高橋・山口・植島・三坂
- L 浅井・斉藤良・藤岡・高山
- L 石井・鈴木・野村・坂村・岩田
- L 田邊・耕至・木下・吉岡・小暮
- L 手嶋・飯田・佐貫・煤孫・斎藤健
- L 棚橋・大野・栗原・横山
- L 小川・大田原
- L 古野・次郎・橋本・利香



わらじ始めにやさしく

越後 守門大岳 母川 (6月会山行Aパーティー)

三坂

【日時】2009年6月13日～14日

【メンバー】L高橋 山口 植島 三坂

リハビリ、膝痛パーティーのわらじ始めには、天気も不安定な中いろいろ選択できて集中も叶うというコースは楽しみだった。ただ、事前の山菜情報にちょっと不安が。

保久礼小屋Pから下って行くと小屋に着く。ひとまず、裏の母川にタープの張れそうな場所を探しに行くが見当たらない。迷いもせず、小屋へ泊り装備をデポ。

9時15分入溪。平凡なゴーロ歩きがわらじ始めと山菜目になるのにちょうど良い。それにしても目に着くのは、よく育ったウドと堅そうなウルイ。それではと、植島さんがフキやミズを大事に採取する。途中でタープを被って雨足をしのいだりしながら進む。900mを過ぎると瑞々しいウルイが現れ始める。待ってましたとばかりに、それぞれが泥壁に取りつきゲット。この様子が翌日、日帰りパーティーの田辺(利)さんからヒヤカされることになるのだが、この時は今晚のおかずを確保するのに必死でしたもの・・・。

950m位から右側の小沢を選び登山道をめざす。雪溪と藪を過ぎ、1時半登山道へ。ここからのぬかるみの下山道ではスパイク足袋に助けられた。下りながらコシアブラでも見つけられたらとも思ったが、やはり足元重視でそんな余裕はなかった。

14日が守門の山開きとのことだったので、保久礼小屋は今晚、混雑するかと思ったが杞憂だった。変わらずの貸切状態。雑然としていた囲炉裏を山口さんは見事に清めた。ただ、この小屋の難点は排煙設備が十分でないこと。焚き火の煙が階段を伝って二階へ充満してしまう。全ての窓、入口を開け放し煙のおさまるのを外で待つ。周囲は立派なブナ林。間を夕霧が漂い樹影の濃淡が幻想的。小屋は長い間、風雪に耐えて来たのだろう。所どころコンクリートを剥ぎ落している。

14日、日帰りPを見送り、ゆっくりと登山道から大岳集中に出発する。10時20分大岳到着。ツェルトを被りながら3パーティーが待っていてくれた。時間が限られ慌ただしかったであろうに、日帰り母川パーティーからは天麩羅までいただき御馳走様でした。そして田辺(利)さんの「高橋パーティーが盗賊のように採り散らした跡を見ながら・・・」の言葉に昨日の自分たちを振り返り、ただただ恐縮したのでした。

【食料について】

- ・持って行った副食 (200g 制限)
- コンビーフ缶 (100g) 油揚げ3枚 (?g) キムチ (30g 位)
- ・山の幸ウド
 - ウルイ ワラビ ミズ トリアシショウマ
- ・メニュー



ウドの刺身（生味噌） 天麩羅 ウド、トリアシショウマ、ウルイ、ウルイとキムチのかき揚げ

和え物 ウドの甘・酢味噌和え ウルイのマヨネーズ和え・酢味噌和え

夕食 ウドの一本煮（コンビーフで煮込む）

高橋さん、山口さんに好評でした。意外にも植島さんはサバ缶での一本煮を食べたことがないと・・・

ミズ・ウルイと油揚げの味噌汁 ウドのふりかけ（細かく刻み、削り節と炒める）

朝食 ミズと油揚げ入り入麵 ワラビのお浸し 焚き火の灰で一晩アク抜き、朝にはふっくらと鮮やかな緑色に！

【行程】

6月13日 保久礼小屋P発 8:45-8:50 保久礼小屋 9:15-12:20 二俣-13:30 登山道-14:30 保久礼小屋

6月14日 小屋発 7:50-8:35 キビタキー10:20 大岳 12:10-13:25-保久礼小屋

【地形図】 穴沢 守門岳



長時間お待たせしてすみませんでした！

越後 守門大岳 大穴沢 (6月会山行Bパーティー)

浅井 他

【日時】 2009年6月13日～14日

【メンバー】 L浅井、藤岡、斎藤(良)、高山

我々Bパーティーは集中時間の11時に1時間も遅刻してしまい、早くから山頂に到着していた皆さんには寒いところ長時間お待たせする結果となり、大変申し訳ありませんでした。遅れた原因は、二日目の出発時間が遅かったことと、二日目に本流を外して支流に入り込んでしまい、登山道に出るまで想定外のヤブ漕ぎを強いられたことの2点です。これらも踏まえながら、以下に概要を記します。

●6/13

中津又沢に入るEパーティーと一緒に刈谷田川の林道の奥まで車で入る。9:15、Eパーティーと一緒に出発。中津又沢に入るEパーティーと別れた後、我々は沢沿いに延びている山道をしばらく辿る。途中雨に降られたが、すぐに止んだ。結局この日は夜までどんよりとした曇りがちの天気が続いた。この山道で、ウルイ・フキ・ミズ、ワラビを採った。我々のパーティーは古野さんが抜けたので、山菜に詳しい人がいないのではと周囲からも心配されたが、藤岡さん・斎藤さん・高山さんとも山菜の基本的な知識は(私よりも)しっかりあるようなので、とりあえずほっとする。

10:30、山道はまだ続くが、沢と至近距離になった450m付近から入渓する。沢のスケールは小さく、いかにも日帰りの沢といった感じ。しばらくは平凡な流れが続くが、山菜を探しながらのんびり進む。途中で少し大きくなりかけたウドを見つけたのでしっかりゲットする(結局ウドが採れたのはここだけだった)。しょぼい感じの溪相が続くので釣り場も少ない。藤岡さんが何度か竿を出すも、釣果はなし。結局イワナは釣れずに終わってしまった。

沢は平凡で特筆すべき所は全くない。大きな枝沢もないので山菜を探しながらだらだら進んでいると現在地を見失いがちになる。あまり上まで行くと傾斜が急になりテン場適地もなさそうなので、669mの手前の等高線が緩んだ辺りで泊まろうと考えていた。左から小さな枝沢が入っているのを頼りに、だいたいこの辺りだろうと判断して、14:00、左岸の少し開けた所を幕場に定めた。

その夜は焚き木も豊富にあり、盛大な焚火を囲んで楽しく過ごせた。山菜は不作気味だったが、採ったものを無駄なく調理したので、それなりに満足できた。何より今夜のシェフの藤岡さんの料理がうまく(特に天ぷらの揚げ加減が絶品だった)、どれも美味しく頂いた。そして最後は山菜の天井という豪華なメインメニューでめてくれた。

斎藤さんは久しぶりの焚火に気をよくしたようで、酒もかなり進み、結局そのまま朝ま

で焚火の側で寝ていた。

●6/14

5時前に起床。この時点ではこの先登山道まで2時間、さらに大岳まで1時間、計3時間から4時間もあれば充分着くだろうと考え、7時に出発すれば大丈夫だろうと判断した。朝食のうどんに入れる天ぷらを揚げたり、出発前に強い雨が降ったりして、出発まで時間がかかってしまい、結局出たのは7:20。この遅い出発が遅刻の一番の原因だった。

30分程進むと、二俣にぶつかる。669の地点はもう過ぎたと思ったので、その先の本流が右にカーブする地点の二俣だろうと判断し、右に入った。左の方が若干水量は多めに見えたが、右の方が沢幅が広く沢床も低く見えたので、その時点での読図により右が本流だろうと判断したのである。後から思えば、この二俣が669の地点であり、本流は右ではなく左だったようだ。

こうして右に入ったが、沢は本流と同じような方角で続いていたので、沢を詰めあがるまで本流を外したという確信は持てなかった。途中の滝場で藤岡さんと高山さんが沢がやや南を向きすぎているのではという疑念を口にしたので、ひょっとしたら本流の手前の支流に入った可能性もあるかと思ったが、万一本流を外したとしても、尾根に出て少しヤブを漕げば登山道に出れると思い、そのまま進むことにした。

右（実は支流だった）に入ると、水量は少ないが、傾斜が強まり、滝が出てきた。8mのつるつるの滝は藤岡さんが空身でハーケンを一本打って突破。全員の荷揚げをして越えた。次の10m滝は直瀑で登れず、左から高巻く。滑りやすい草付で高度感もあるので、ここでもロープを使った。このような高巻きで4人でロープを使うと結構時間を食う。この高巻きを終えた時点で既に9:25になっていた。

この先の小滝をいくつか越えると沢はしだいに傾斜が緩み、さくさくとに進めるようになった。沢は本流と同じ方角に進んでおり、やはりこれは本流に間違いないだろうと思っていた。最後の小さなスラブ滝を登るとそこで沢は



★左から高巻いた 10m滝

終わり。上の稜線まではすぐである。この時点で10:00。滝場で予想外の時間を食ったので遅れてしまったが、上の尾根に登山道があれば何とか集中時間の11時にはぎりぎり間に合うかなと読んでいた。

しかし上の尾根に上がっても一向に登山道は見えない。やむなくヤブを漕いでいくと見通しは悪いながらも周囲の状況が少しずつ見えてきた。左手に沢（これが本流だった）が食い込んでおり、これで本流を外してしまったことが確認された。どうやら996の尾根にいるらしい。とりあえず1167の登山道目指してヤブを漕いで行くしかない。あと1時間くらいはかかりそうなので、この時点で11時に集中場所に着くことは断念した。無線でその旨を伝えると、とりあえず待っているので山頂まで登ってきてほしいという返事。ヤブは結構手強く、結局登山道に出たのは11:10であった。ザックを登山道にデポして大急ぎで



大岳に向かう。久しぶりのハードな山行で疲れ気味の斎藤さんを励ましながら登り、待ちくたびれた皆さんのもとに着いたのは1時間遅れの12時になってしまった。袋叩きにあうかと覚悟していたが、とりあえず皆笑顔で迎えてくれたのでほっとする。本当に長時間寒いところをお待たせして申し訳ありませんでした！

下山はBパーティのみ荷物をデポした所まで戻り、出発点の大穴沢の出合の林道まで下って、14:50、車に戻った。

今回の反省点としては、まず出発時間が遅かったこと。本流を外さなければ集中時間間に合ったかもしれないが、今回のような想定外のことも起こり得るので、1時間くらいは余裕を見て出発すべきであった。次には読図に甘さがあったこと。事前に間違いやすい支流などを念入りにチェックしておくべきであった。山菜山行ということもあり、沢を甘く見ていたようであった。今後の会山行の教訓にしたいと思います。

Bパーティの食料について(藤岡シェフより)

●副食物 ベーコン200g

●食べた山菜の種類と料理内容

ウドの天ぷら、ウドの天井、ウドの酢味噌、ウドのきんぴら、ウドの一本煮、ウルイのベーコン炒め、フキのおひたし、ミズのたたき

高山さん・斎藤良さんのコメント

●いかに飽食の沢旅をしているかを身にしみて感じた山行。ひもじかったからでなく、少ない食材でも充分ご馳走を堪能したから。藤岡シェフ、美味しい料理をありがとうございました。ワラビ4本だけのうどんにのっけてもらった揚げ立ての海苔天は、中でも涙ものでした。斎藤さん、朝採り青ミズのおひたし、初めて食べる絶品でした。後日調べたのですが、「青ミズはヤマトキホコリで、赤ミズはウワバミソウ。よく似ているけどまるで違う植物。そういう場合、どちらかが毒だったりするのに、これは両方とも食べられる」とありました。面白いですね(それより、朝から何をしているんだと野次が飛んでくるか…)。(高山さん)

●久しぶりの泊まりの山行、ならびに焚き火。種類は少なかったですが、それなりに楽しめた山菜料理。1日目は満足しましたが…。(斎藤良さん)

【行程】

6/13 林道奥の車止め(9:15)～大穴沢入渓点(10:30)～669mの手前の幕場(14:00)

6/14 出発(7:20)～669mの二俣で右の支流に入る～996mの尾根直下(10:00)～登山道(11:10)～大岳(12:00)～林道奥の車止め(14:50)

【地図】 栃堀、穴沢、守門岳



越後 守門大岳 中の高地沢 (6月会山行Cパーティー)

坂村

【日時】 2009年6月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 L石井、鈴木、野村、岩田、坂村

《6月13日》

前泊地は異様な様だった。道の駅「いりひろせ」に入ったが、それっぽいテントは一つもない。「あれれ？」なんて言いながら車のライトが駐車場の奥を照らし出したとき、そこは巨大な宴会場と化していた(呆気!)。6時起床。起床&出発時間を遅くしたのは釣師への配慮からとのことだが、昨夜の宴会の様子を見るとそうとばかりも言えないのではないかと思う。ミーティングをした後、各パーティーに別れ、入渓点に向かう。

9時、二口の先の駐車場から農水路を通って目的の沢に到着。農水路と沢との合流点で石井さんが「現地点の確認はできてる？」と聞いた。野村さんと岩田さんが「『(中の高地沢) 中』の字のあたり」と言ったが石井さんは違うと言う。しかしこれは同じ国土地理院の地図でも改定年度の違いにより『中の高地沢』と表記してある位置がずれていたためであり、全員の指している地点は同じだった。これからは現地点を確認し合うときには表現に気をつけようと話し合った。

いくつかの堰堤を避けるため沢に沿った作業用道を暫く歩き、入渓。入渓後石井さんがさっそく釣りを始めた。今夜の大事な蛋白源を失うわけにはいかないので全員後方で大人しく待っていたが、少しすると雨が降ってきた。雨はすぐにザーザー振りとなった。もう少し待って欲しかったな。でも大岳集中の明日は曇り時々晴れの予報なのでまあよしとする。暫くは全員大人しく待っていたが、私以外全員釣師なので皆それぞれの邪魔をしない、かつ、自分も楽しめるように散って行った。

山菜取りと岩魚釣りをしながらゆるゆると遡行し、13時半、標高900メートル付近で約20メートル程度の滝が出現した。左岸側の壁伝いに登るが、途中で横移動をするときに私は困ってしまった。足場が遠い。経験が浅いうえにチビの私には確保なしでは難しいように思えたので、鈴木さんの指示で足場の良さそうな場所を探し、お助け紐を借りつつ通過した。

30分後、標高950メートル付近で第二の滝出現。先ほどと同じくらいの高さ。向かって右側から巻くと言う。右から巻く以外にはなさそうだが、上部で別の滝が合流していた。あそこはどうするのだろう。横断して滑って落ちたら怪我じゃ済まないかも…もっと大きく高巻くのかなー…なんて思っていたら、石井さんは当たり前のように合流している滝を横切って行った。すごい…恐ろしくないのだろうか…。後続はお助け紐に助けられながら通過した。



第二の滝は右から巻く

14:00 幕営予定地に到着。整地し、タープとツェルトを張り、薪を拾って、すばらしい寝床ができた。

【持参した副食】

ホタテ缶 1缶

いりこ

【本日の収穫】

岩魚6匹、蕨、ウド、ウルイ、ミズ、アブラコゴミ、タケノコ

【本日の宴会メニュー】

- ① アブラコゴミの胡麻和え
- ② ミズのおひたし・ワサビ塩入り
- ③ 岩魚の塩焼き
- ④ 米粉（一部蕎麦粉）の天婦羅 ウド、蕨
- ⑤ ウルイの酢味噌和え
- ⑥ ウドの酢味噌和え
- ⑦ 岩魚の骨酒
- ⑧ ウルイといりこの炒め物
- ⑨ ウドのマヨネーズ和え
- ⑩ タケノコは生でそのまま

【主食（夜）】

ウルイとホタテのあんかけごはん

【主食（朝）】

ウドのパスタ

※普通のスパゲティと米粉のペンネの二通り

《6月14日》

5時。岩田さんはぼったくりバーで15万円請求されたところで夢から醒めた。鈴木さんも野村さんも爆睡したらしい。石井さんはツェルトの中にすら入らずタープの下で寝た。私はというと背中に当たる石が気になり、うまく寝られなかった。起きると頭がガンガンしている。いつか私も他の人たちのようなタフな人間になれるだろうか。

7時出発。起きたときには降っていなかった雨が降り始めていた。本日も山菜を採りながらゆるゆると歩く。収穫物にコシアブラが加わった。1時間ほど歩き、標高1050メートル付近で垂直に落ちる大滝が現れた。30メートル以上あるように見える。向かって左側の比較的緩い尾根から高巻く。藪の通過で腕がパンパン…。こりゃ明日は筋肉痛だ。



立派な滝に暫く見とれる

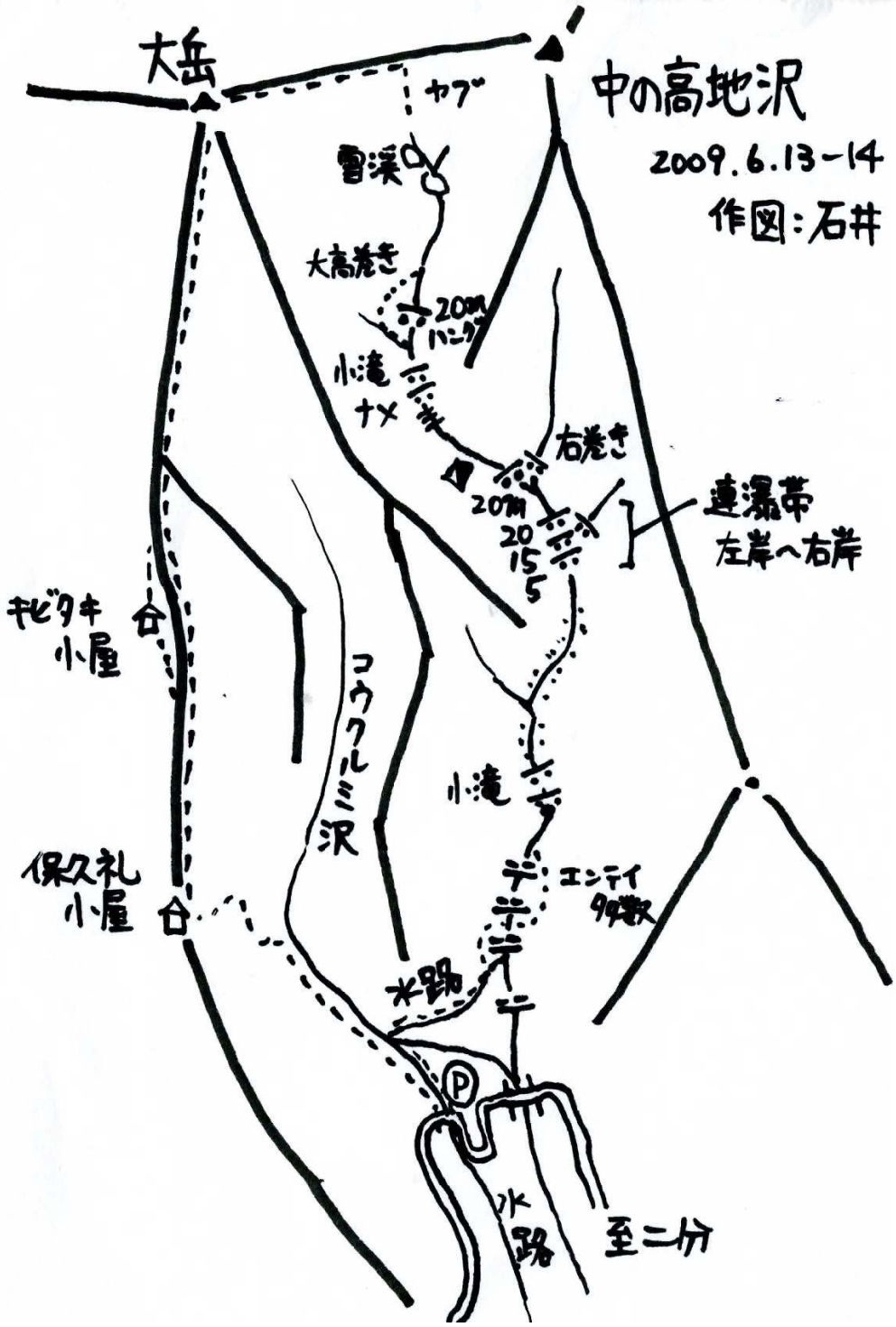
その後、ところどころ雪渓が出てきて、沢は細くなり、15分程度の藪漕ぎになり、登山道に出た。鞍部に出る予定だったがほんの少しだけ守門岳寄りに出た。ぬるぬるの道を歩き、10時山頂着。山頂には異様なドームが2つあった。先に到着した他パーティが、待ってる間の寒さをしのぐためツェルトを被って固まっていたのだ。行動をやめると体はみるみる冷えていった。ドームはほどなく3つになった。

【行程】

- 6/12 二口上部駐車場 (9:00) ~
900m付近滝 (13:00) ~
950m付近滝 (13:30) ~
960m付幕営地
- 6/13 960m付幕営地(7:00) ~
1050m付近滝 (8:00) ~
鞍部 (9:30) ~山頂(10:00)
- 下山:山頂(12:00) ~保久礼小屋~
二口上部駐車場 (14:00)



山頂に怪しげなドームが…！？



2009.6.13-14
作図:石井

【日時】 2009年6月13(土)～14日(日)

【メンバー】L田邊(一)、佐藤(耕)、小暮、木下、吉岡

■6/13(土) (曇り時々雨)

行く沢はオカバミ沢。猿倉橋駐車場にある登山案内図によると、地元名は『おかがみ沢』。

西川に入渓し、すぐにある堰堤までは右岸側の作業道と踏み跡を辿る。堰堤は左岸側を上がり進む。この袖部に上がる時点で、腕力の無さを痛感。自分の身体を自分の力だけで上げることが出来ず、ザックを木下さんに押ししてもらい何とか這い上がる。この際、前歯を袖部壁面に打ちつけ、歯がかけていないか女魂に火が点きかけるも即消し。

食糧制限があるため、早々に小暮さんと田邊さんは糸を垂らす。私は今回が釣りデビューであるが、目標地点に糸を投げる事が中々出来ない。木下さんに見本を見せてもらっている間に、その場でイワナ一匹をゲット！さばき方もその場で教わる。最終的に田邊さん、小暮さん、木下さんによりイワナは5匹が釣れた。

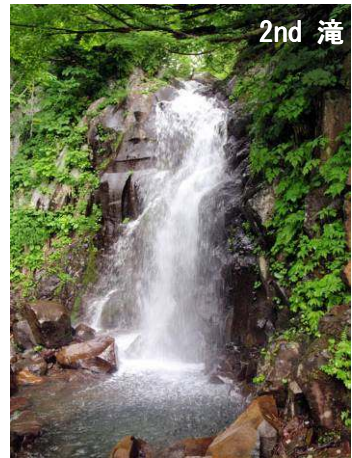
食糧取得に精を出しローペースで進み、出発から第1の滝に到達するまで1.5時間かかった。第1、第2の滝は左岸側を巻いた。

そして、何よりも山菜である。当初、今回は美味しい山菜採取は期待出来ないということで、保険をかけて少し成長が進んでいるウドも採っていく。

しかし、遡行するに連れて食べ頃の素晴らしいウド畑やウルイ畑が！多量の山菜を採取する。ヤマブドウの葉やアブラコゴミ、ミズ、アマドコロ等々。この他にブナヒラタケも発見・収穫。食糧の心配は全く無くなった。

幕場は大滝下方部にて、ユキザサの採取後に設営。大滝が視野に入り、景観としては抜群である。

食糧制限のある中の200gの食材の詳細については耕至さんのコメントにあるため省略・・・。



イワナは木下さんにより刺身、ムニエル、塩焼きに調理される。刺身は舌から口内、喉越しの感触、そして味覚まで極上である。刺身で感じられない香はムニエルで。最後に塩焼き。塩焼きは仕上がりにまで焦らしつつも、相応の味覚の高ぶりを与えてくれた。全て絶品！

多量にあるウドとウルイに加え、アマドコロ、ユキザサ、トリアシショウマは、鰹節、マヨネーズ、味噌、ゴマ、ピーナッツ、わさび和えやお醤油で頂く。ウドの素焼き味噌付けも美味しかった！

ブナヒラタケはバター炒めやウルイとともにオイスター炒めで満喫する。

天ぶらの具材として、ヤマブドウの葉（新芽）、ウルイ（葉込み）、ウド（葉込み）、アザミ。これらを塩、抹茶塩、カレー粉、おつゆで堪能する。

天ぶらを食べた時点で、満腹状態。ここから、耕至さんによると本日のメインが始まる。山菜のおひたしや天ぶらは前菜という位置付けになり、メインは耕至さんと小暮さんによるスパゲッティ。ウルイと干しエビ入りスパは、エビの主張にウルイは屈した味であった。そして、コンビーフとウドのスパゲッティ。ウドとコンビーフの素晴らしいハーモニーが口の中に広がりました！

五臓六腑に加え、全感覚が満たされた夕餉でした。山の恵みは素晴らしい！



-----『食』について-----

【田邊さん】

今年は例年に比べて山菜の季節が早く、食べ頃の山菜は採りづらいのではなかろうかとの声がありましたが、フタを開けてみれば例年と変わらない量と種類の山菜でした。それに増して今回はブナヒラタケ、イワナの塩焼・ムニエル・刺身までが加わる豪華な食を堪能することができました。さすが義と愛の国、越後は我々を裏切らない！

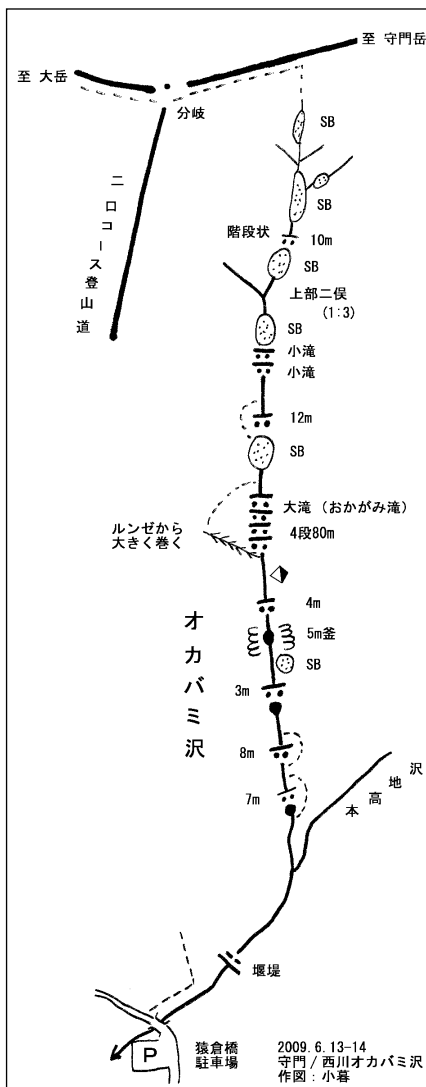
【耕至さん】

副食係をおおせつかった。用意したものは、削り節40g・中華用干し海老40g×2・コンビーフ（缶詰ではなくレトルトパウチに入ったもの）70g・残りの10gはフリーズドライの味噌汁で200g。副食の選定にあたって、食品100g当たりのたんぱく質の含有量からすると、スルメ69.2、干しエビ48.6……で、戻せば相当味が出る。値段が張るのがナンだけどね。主食はスパゲティ1kg、私が持っていった調味料は、マヨネーズ味つき2種・ニンニク味噌・オイスターソース・XO醤・カレー粉・ユズ胡椒・胡麻油・岩塩。全部合わせると決して軽量化にはならない。何も採れなければ、天ぶら用的小麦粉でお好み焼き。そのために削り節・マヨネーズ・オイスターソースを用意。同じ小麦のスパゲティも似たように食えるだろうというわけだ。それでもウルイとウドくらいは狙えるだろうと思っていたので、想定メニューは、1.ウルイと海老入りスパゲティ・削り節かけマヨネーズソース&XO醤+オイスターソースの2品/2.海老入りウルイのオイスターソ

ース炒め／3. ウルイのマヨネーズあえ／4. ウドのニンニク味噌添え／5. ウドの中華用干し海老煮／6. ウドのカレー風味1本煮／7. 天ぷらである。結果として1・2・3・4・7ぐらいが実現した。天ぷらはやはりメインだが、それなければもっと腕がふるえたかもしれぬ。一度、天ぷら禁止というのはいかがかなあ。

【小暮さん】

ミズ、ウルイ、ウド、トリアシショウマ、アザミ、ヤマブドウの芽、ユキザサ、アマドコロ、ぶな平茸、岩魚と沢山の食材をゲット出来た。和え物、炒め物に始まり、岩魚の刺身、ムニエル、塩焼き、メインの天ぷらに入ればすっかり満足。平茸のソテーも良かった。山菜以外に岩魚と茸もあり、これまでの山菜山行の中でも指折りの上位ランク入りです。



■6/14 (日) (曇り時々雨)

7:05にBPを出発し、5分後には大滝下に到着。4段になっており、1～2段目までは巻かずとも行けるという意見があったが、上方がガスって様子がわからないこと等安全性の観点より右岸側を高巻くこととする。ここでスパイク足袋を履いた。

沢に降りると雪渓が出現し、大滝から40分程で第二の滝が現れる。ここも右岸側を巻く。

雪渓終了後は稜線目指してヤブ漕ぎ。このヤブ漕ぎに私はかなり悪戦苦闘する。

稜線に出てからは、雨でぬかるんだ悪道に苦戦しつつも、集合時間5分前に到着。全員終了を待って、大岳登山道にて下山。この下山道のすごいぬかるみにより更に疲労蓄積し、保久礼小屋手前の駐車場に到着。傍にある水路で、泥道で汚れたザックや全身を洗浄、気分爽快で終了しました。

山菜採り、調理、釣り、沢登り等全てにおいてメンバに本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【行程】 6/13：猿倉橋駐車場 (9:00) ～大滝下部BP (14:50)

6/14：BP (7:05) ～大滝 (7:10) ～登山道分岐 (10:20) ～大岳 (10:55) ～駐車場 (13:40)

【地図】 守門岳

はてさて、いったい何種類の山菜が？

越後 守門大岳 中津又沢 (6月会山行Eパーティー)

手嶋

【日時】 2009年6月13日(土)～14日(日)

【メンバー】L手嶋、飯田、煤孫、斉藤(健)、佐貫

6月恒例の食糧制限会山行。わずかに許された食糧以外は、現地調達物しか食べてはいけないといういつもの規制。どうも今年は山菜の出が早いので、時期的にもう遅いのではないかという心配の中、出発当日となった。

前泊地の道の駅いりひろせを出発し、藤岡パーティと一緒に流域に向かう。広場に車を置き彼らと別れ入渓。しかしどんよりした空から雨が滴り落ち、すぐに土砂降りになってしまった。早速木の下で雨宿り。予報はそう悪くはなかったが、始めからこれでは先が思いやられる。最近最強の雨男の称号をほしいままにするF氏が、隣パーティでまだすぐ近くいるなということで、皆納得。

雨も小降りになったので再出発。ゴーロが続く。ともかく続く。ゴーロと言っても気持ちのいい平坦な河原歩きとは異なり、岩がゴロゴロしていて上り降りもあり、結構消耗の歩きだ。ヤブっぽい沢歩きと並んで、まあやっついていて不快なぐらいと言える。ともかく続くのである。しかし天候は幾分回復してきた。F氏が完全に尾根の向こう側に行ったな、などと無駄口をたたきながら登る。

さて今回の死活を握る山菜はというと、佐貫が武器とする視野240度の目を皿のようにして探す、彼女得意のウドも大きなものしかなく、とても確保しようという気にならない。そのうち少しずつ大きめのウルイを採り、ヤマブドウの芽を採り、しかし決して種類も量も多くないので、普段豊作の時にはまず採らないミズヤフキにも手が出る。結局この日はテン場付近でウドの芽の部分だけを採ったり、ようやく出たてのウルイを見つけたりしたが、結局そんなものであった。

一方釣りはといえば、適当なところで竿を出すと小さめだが私が続けざまに2匹をゲット。1匹はリリース。飯田君はルアーを振る。これは時間なのだろうか、あるいは場所なのだろうか、午前中は私のエサ釣りにヒットが何度かあったが、溯るうちにやがてそれは全くなり、飯田君のルアーが冴えるようになってきた。かくして動物性蛋白質は何とか人数分を確保。この欠乏山行でのタンパク源となった。



下流部のつまらないゴーロ

さてこの沢、下3分の2は上述したように疲れるゴーロ。しかし6mの立った滝を境にナメが続くようになった。難しいところもない。時にナメ滝となり緩急をつけながらのナメ帯はなかなか美しい。このあたりだけを見れば、十分に美渓と言える。

やがていつの間にか本日のテン場に予定していた標高950m地点を過ぎたので、適地を見つけながら歩き、ようやく左岸の灌木の中に1張り分の空き地を見つけ、終了となった。今回は基本的にはテントも禁止であったが、雨が降りそうな場合はよしということだったので、躊躇なくテントを立て、タープを張り、いつもの宴会が始まった。収穫物不作のわりには皆さん趣向をこらした料理が次々に作られ、なかなか満足する夜となった。料理のリストは後述。



6m 滝。ここから沢は快適に

翌朝、出発する頃にまたザーッと来たが、小振りになったところで出発。昨日の延長で美しいナメが続く。やがて源頭に近くなり雪渓も出始めるが、特に難しくないので歩ははかどる。

しかし大きな雪渓がかかり、出口に少し大きめの滝（6mくらい？）がかかっているところを抜けるのがやっかいそうだ。もうあと150mも登れば稜線である。結局右手に雪渓中に滝となって落ちて



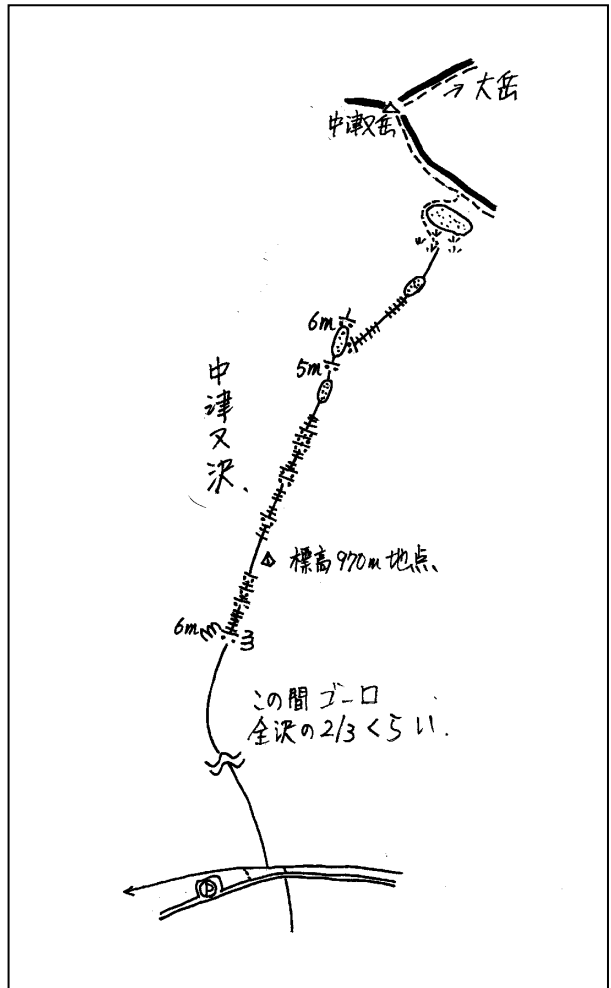
上流部のナメ帯
いる支流に取りついて、ここから登山道に抜けることにした。

これが意外とあたりであり、この滝は30mほどの大きなものだが、濡れているものの階段状で楽しく登れる。その上はきれいなナメが続く。途中でユキザサを採りながら、最後は傾斜のある広い湿原となった。その上にへばりつく雪を避けながらここを登り、最後垂直の5mほどの泥壁を木登りして無事に登山道にたどり着いた。御苦労さん。

しかし時間はまだ7時半過ぎである。集中地の大岳にはどんなにゆっくり行っても9時前には着いてしまう。歩き始めるがのんびりと言っても限りがある。このあたりでようやくちょうどいい大きさとなったコシアブラを採りながら、大岳に向かう。しかしやはり9時前には着いてしまった。当然一番乗りだ。

手持無沙汰であたりをブラブラするが、小雨でもあり寒いのでタープをかぶることにした。バーナーをつけるとこれが温かい。いつしか宴会が始まり、コシアブラのテンプレをしながら、次々と到着するパーティそっちのけで盛り上がった。最後1時間遅れの浅井パーティを待つまで3時間以上、この寒い頂上で過ごしたのであった。

保久礼に下る登山道の最悪のヌルヌルは皆さんご存じのとおり。駐車場からは鈴木さんに入渓点まで送ってもらって今山行を終了した。沢トータルでは、上3分の1はなかなか良いが・・・という感じ。食糧は少ない収穫だと思っていたが、それなりに料理は充実し、いつもの充実つまみ持参の時以上の満足感が得られた山行だった。



○作った料理リストは以下のとおり

山菜料理・・・天ぷら（山ぶどうの芽、ウド、コゴミ、ウルイ、スカンポ）、ウルイのおひたし（醤油マヨネーズ）、ウルイの炒め物、ウドのキンピラ、ミズのおひたし、フキと仙台麩の煮物、ウド・ウルイ・ベーコンの混ぜご飯 柚子胡椒風味、山菜パスタ（ウド・ウルイ・ワラビをアンチョビソースで）、おまけで山頂の天ぷら（コシアブラ）、その他

岩魚料理・・・から揚げ、焼き火塩焼き、ムニエル、ムニエルカレー味
ちなみに副食は、仙台麩50g、ベーコン100g、アンチョビ50gでした。

【グレード】1級上

【行程】6/13 入渓（9:30）～6m滝（14:50）～970m付近テン場（16:10）

6/14 テン場（6:20）～登山道（7:40）～大岳（8:55）

【地図】栃堀、穴沢、守門岳

越後 守門岳 本高地沢 (6月会山行Fパーティー)

横山

【日時】 2009年6月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 棚橋、大野、栗原、横山

「採(獲)らなきゃ喰えない！」

こんな楽しいプレッシャーの山行は初めてだ。入渓してすぐに鶺鴒の目鷹の目で山菜探し始め！すぐにネマガリを見つける。釣りも早々に始めた。ルアーに反応する小さなイワナがいる。二股で他パーティが釣るのを見て、なんとかなりそうな気がしてきた。が、私のルアーは行動中に携行し易くする為に竿先を外して2段目から、調子が合わない。ルアーも針があちこちに刺さると面倒なので、通常3本針を1本針に替えてある。さすがにオショロコマとは違いなかなかフックしない。“ヤバイ”～言い訳を考える前に、大野さんと棚橋さんがしっかりGETしてくれました、ほっ。一方、山菜も栗原さんが山菜図鑑まで持参して探してくれたおかげで十分見つけることができました。

ルートには特段難所はなく、登攀不能な滝にはゼンマイ道のような巻道がありました。唯一、20m滝左壁の巻きはスタンスが外傾で高さもあり少し緊張。900m過ぎから幕場を探したが適地少なく、950mの少々藪っばい所に決定。(翌日1000mに広い場所発見)。それでも乾いた薪材、豊富な山菜と必要十分のイワナで豪華～な夜！特にウドは久しぶりで北海道にいた6年分まとめて頂きました。ウマ！棚橋さんの天ぶらと栗原さんの料理は上手でした。私は飲んで食べる人、大野さんは寝てる人でした。雨混じりの天気でしたが、タープの下でたき火をするトマ流は初めて、とても快適で感動しました。



仕事疲れて昏倒する大野さん、

でも釣るときゃ釣る！



2日目は余裕をもって早出。1200mから上は雪渓が多く、結局ロープを出すような場面もなし、2時間で守門頂上直下へ到着。集中場所の大岳へは2番乗り、1～2人用ツエルトで4名膝を抱えて約3時間の待機が今回の核心部だった？記念写真後、ぬかった



道をグリセードで一気に下りました。

【メンバー感想コーナー】

今回の、食料制限のみならずテントやツエルト、ガスコンロの使用制限は、山行の幅を広げる良い機会であるばかりか様々な場面でも役立つとも思われ、係りの方の見識の高さを感じられた。集中山行を含む様々な制限、普段あまり行なわない人のリーダー・食当・記録係（遡行図も含めて）の経験等、少し訓練的な意味合いの強い会山行が有っても良いのかも知れない。（棚橋）

漸く！！今シーズン念願のウドにありつけた！ウド・ウルイとそろえば、もう食いつばぐれ(?)の懸念もなし、天ぷらに岩魚汁にと、山の幸を堪能。欲を言えば、もうちょっと料理の腕を磨いておくべきだったか・・・ともあれ、楽しい山行だった。ご馳走様！（栗原）

私は釣りと登りで一杯一杯でしたが、棚橋さんはしっかり記録をつけて、まるで本に載っているような遡行図の仕上りにビックリ！文化ですね～（横山）

【行程】 6/13 猿倉橋P(8:48)～堰堤上部(9:10)～オカバミ沢出合(9:50)～20m滝下部(14:15)～Co950C 1(15:00) 6/14 C 1(6:25)～登山道(8:10)～守門岳(8:15/35)～大岳(9:25/12:10)～保久礼小屋～二分登山口(13:20)

【収穫物】 岩魚(4匹)、ウド、ウルイ、アブラコゴミ、山ブドウの芽、アマドコロ、アザミ、 トリアシショウマ 【副食】 鮭缶100g、ベーコン100g

【料理】 ウド芽・山ブドウの芽・アブラコゴミ・アザミの天ぷら、ウドの1本煮、ウルイのベーコン炒め、ウドの直火焼き、ウドの味噌和え、ウドの金平、アブラコゴミのピーナツ和え、岩魚のムニエル、ウド丼、岩魚汁、アマドコロのマヨネーズ和え、ウドのニンニク醤油炒め、トリアシショウマのピーナツ和え、岩魚雑炊



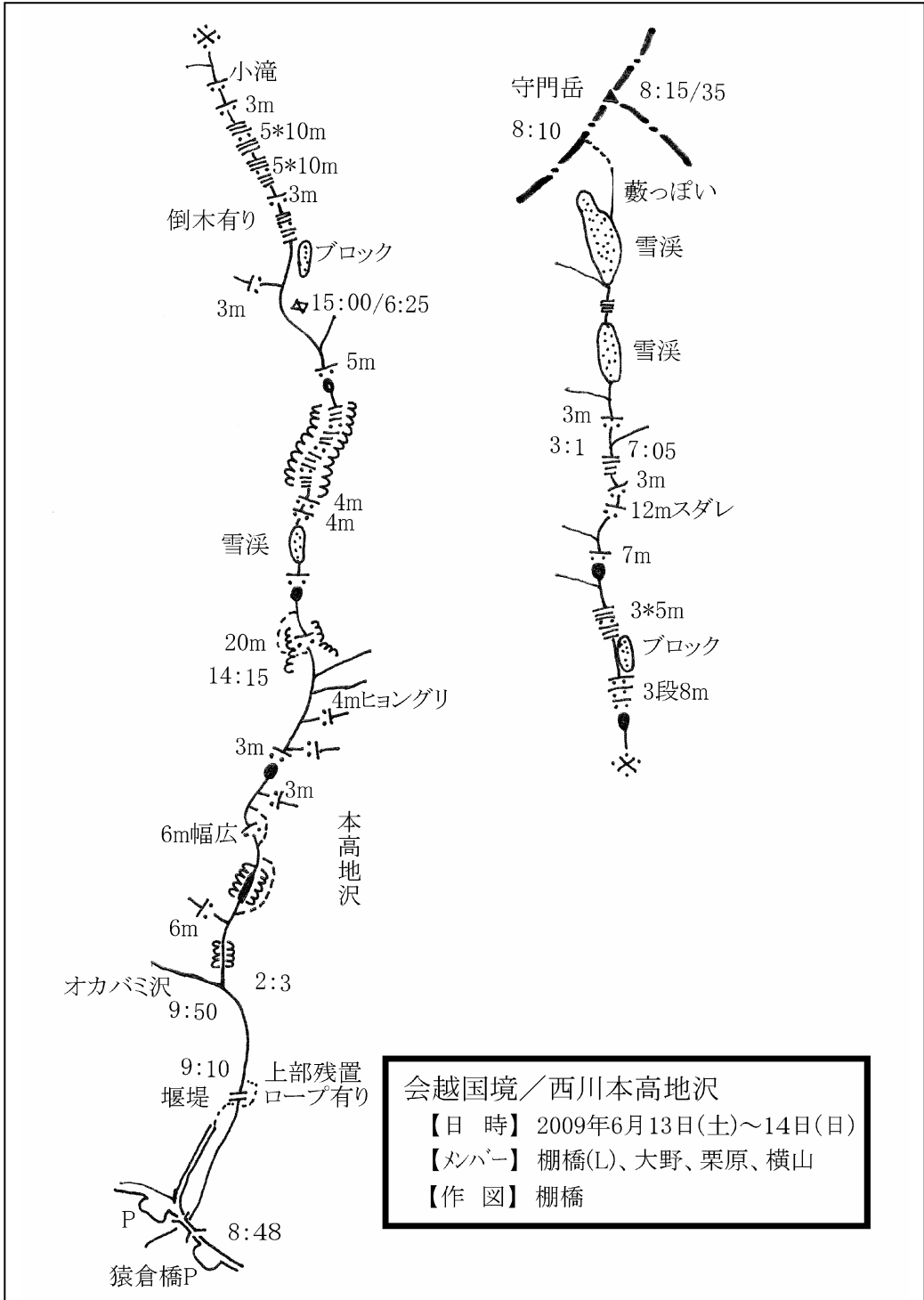
本高地沢P ☆ お品書き ☆

上段 天ぶら揚げる棚橋板長と栗原女将
天ぶらサクサク！

2段 イワナ汁とイワナムニエル風
脂が旨そうでしょ！

3段 ウド丼と油コゴミピーナツ和え

4段 朝食：イワナ、ウルイ雑炊



越後 守門大岳 コウクルミ沢 (6月会山行Gパーティー)

小川

【日時】 2009年6月14日(日)

【メンバー】 L小川、大田原

我々Gパーティーは古野さんら母川パーティーとともに、猿倉橋の駐車場から登山道へ車で移動する。朝から、時々大雨が降ってきて急き立てられるようにして登山道を歩き出し、保久礼小屋への登りとなったあたりで母川パーティーと別れる。

入渓してすぐに左から支流が入る。まあ特に特筆する箇所もないが、シーズン初めの沢となると、湿った森の薫りを胸に吸い込むだけで気持ちがいい。

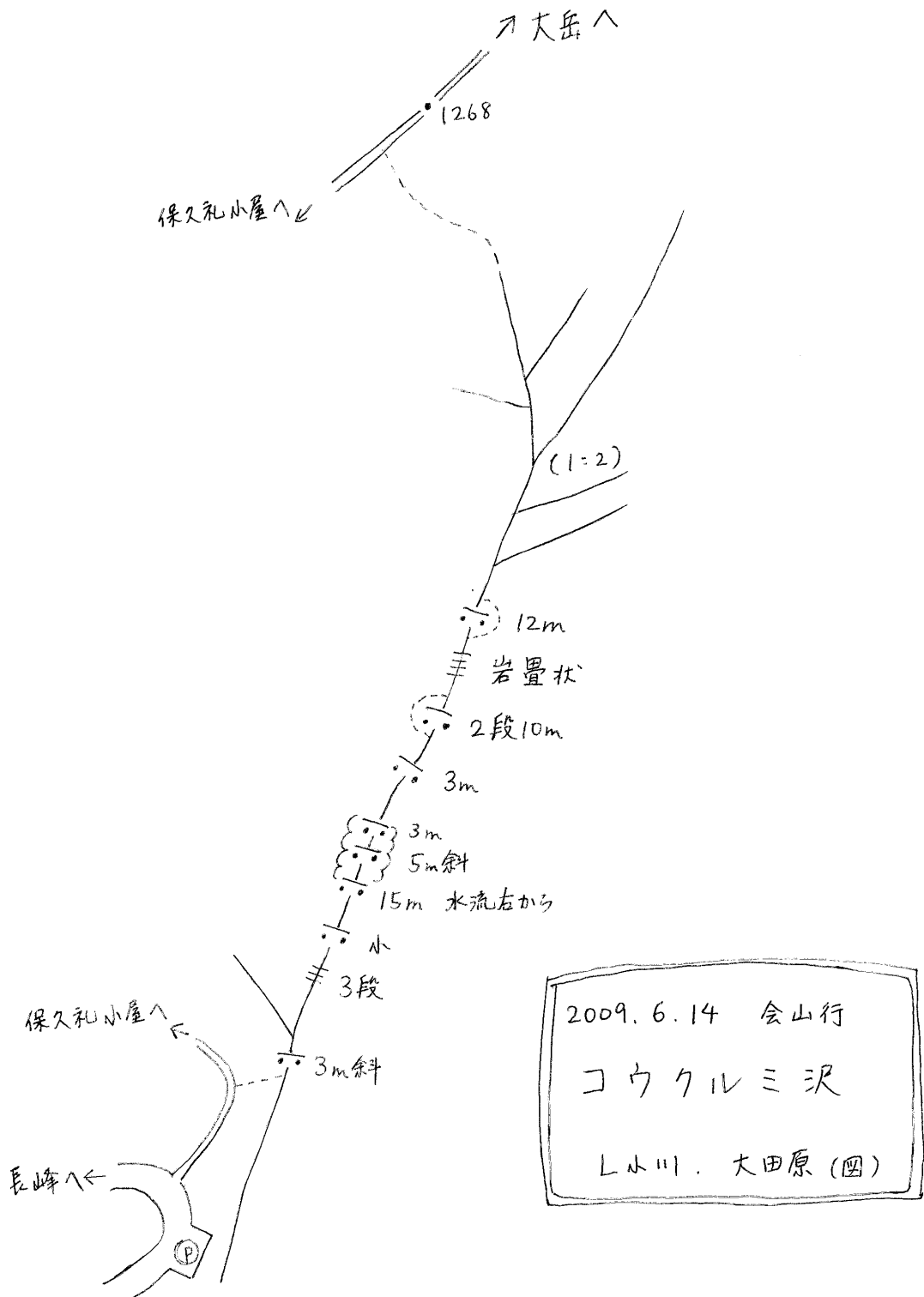
しばらく歩くと地形図上で一つ目の滝に出くわす。高さは15mほどか。せっかくなので右からザイルを出して登る。ガバに見えたが、どのホールドもフラットで意外と登りづらい。滝上で9時前。このままだと11時ってきついですね、そうですねと呆けた会話を大田原さんとする。会山行の日帰りパーティーとは、なんともせわしい。



先を急ぐと、地形図で二つ目の滝。これは高さ10mほどで大したことはない。10時半に1268mPにでる支流と出合っ、こちらを行くことにする。遅刻確定なので、さっさと藪をこなして登山道へ。大岳山頂には10分遅れで到着。まだ浅井さんたちがいないということで、ちょっと抵抗があったがツェルト集落の一味に加わらせてもらう。わずかに採ったウドを食べて暖まる。

こうして今年の沢初めはせわしくも、会の暖かさに触れつつ始まった。今年はどこに行けるかなあ。

【行程】 6/14 保久礼小屋登山口(7:30)～入渓(7:45)～15m滝(8:50)～
支流入る(10:30)～登山道(11:00)～大岳(11:10)



2009. 6. 14 会山行
コウクルミ沢
L小川. 大田原(四)



越後 守門大岳 母川 (6月会山行Hパーティー)

橋本

【日時】2009年6月14日

【メンバー】古野(L)、渡辺(SL)、田辺(利)、橋本

朝4時ぐらいに二分キャンプ場駐車場で大勢の人声で目を覚ます。丁度山開きのイベントで訪れた人たちであった。登山道を登り始めるが小雨交じりで氣勢を削がれる。途中でコウクルミ沢に入る小川・大田原パーティーと別れ保久礼小屋を目指す。保久礼小屋では昨日既に母沢を素行し終えた高橋パーティーが出迎えてくれた。昨日は途中で左岸支沢より登山道に抜けるルートを通った事と、集合時間に間に合わない場合のエスケープルートとして適当な沢である事を伝えてくれた。

沢の方は至って単調なゴーロが続き、天候も悪いせいかわ渡辺さんの足取りは重く感じられた。しかし、所々でウルイ、ウドと言った山菜が顔を見せる。田辺(利)さんは素早い手付きでその恵みを頂いていたが、先行のパーティーに美味しいところを持って行かれてしまった事に多少不満顔であった。泥壁の上の方には美味しいのが沢山あるのに、手が届かない。丁度良いところは既に茎だけ！でも探せばあるもの。辺り一面ウルイとコバイケソウが混在したような畑を発見。間違えるとえらい事になりそうとの声に田辺(利)さんがキッパリと“大丈夫、私には分かるの”と…コバイケソウ・ロシアンルーレットの様に私には見えただが、その後命に別条が無かったところを見るとさすがと言う他ない。そうこうしているうちに、すでに9時を回り、山頂集合時間11時が危うくなってきた。ここから、高橋パーティーより聞いた左岸支沢

(970m出合)に入りキビタキ小屋近くの登山道に出る事にした。山頂に着くと既に殆んどパーティーがツェルトを被りながら雨と寒さを忍んで居た。そんな状況で古野さんが天ぷらをしようと言いだした。雨の中で、である！渡辺さんとツェルトを広げるやいなや古野さんは用意してきた天ぷらセットを広げ、手際よく山菜を揚げていく。さすが手慣れたものである。他のツェルトからも山菜の差し入れを頂き、天ぷら屋さんもフル稼働。揚がりたてを振る舞い、大賑わいとなった。

雨の中、途中までで終わってしまった遡行ではあったが、春の息吹きを満喫するには十分な内容であった。そして私にとっては久々の仲間との再会と沢登であったの事がなにより嬉しい山行であった。

【グレード】渡沢1級

【行程】二分駐車場(7:05)～保久礼小屋(7:35-7:40)～970m出合(9:00-9:10)～
登山道(9:40)～大岳山頂(10:45)